

お客さまとのかかわり

製品・サービスの品質保証

品質方針

私たちは、お客さまが品質保証活動で使用される環境試験器を提供しており、エスペック製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、私たちの存在意義があると考えています。私たちは、「お客さまへ安全、快適、確実に使命を果たす、より確かな製品とサービスの提供を行う」を基本理念として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取り組んでいます。

品質保証体制

国内外でEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立し、活動を行っています。

また、1993年に国内他社に先駆けて品質マネジメントの国際規格「ISO9001」の審査・登録を行いました。その後2015年のISO改正についても移行を完了して認証継続するとともに、品質保証体制の継続的改善を実施しています。

2017年度は「品質システムの再構築によって品質改革を実現させる」「品質パフォーマンスの向上によって製品保証費を低減させる」の二つを基本方針に掲げ、各部門の連携を密にした品質保証活動により、製品とサービスの品質向上に取り組みました。

QMC活動

エスペックでは、生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す全社員参加型の「小集団活動」へと転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。

2017年度は、68サークルがさまざまなテーマで改善活動に取り組み、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果を得ることができました。

お客さま満足の向上に向けて

第9回国際二次電池展に出展(東京ビッグサイト)

二次電池・蓄電池の製造・開発に関する世界最大の展示会「第9回国際二次電池展」に出展しました。恒温槽一体型の二次電池充放電システム「アドバンストバッテリーテスター」や、急速な温度変化に対する試料の耐久性を評価する「ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズ」などを展示しました。出展ブースでは、電池モジュールや電池パック特有の安全性評価事例や試験動向などに関するセミナーも開催しました。国内のお客さまはもとより、中国、台湾、韓国をはじめとする海外のお客さまにも多数ご来場いただきました。



第9回国際二次電池展(東京ビッグサイト)

プロダクトロニカに出展(ドイツ・ミュンヘン)

2017年11月にドイツのミュンヘンで開催された国際電子部品製造機器専門見本市「プロダクトロニカ」にドイツの代理店と共同出展しました。自動車市場で要求の多いIEC60068シリーズなどの試験規格に適合するハイパワー恒温(恒湿)器や冷熱衝撃装置などを展示しました。世界各国から126名のお客さまにご来場いただきました。



プロダクトロニカ(ドイツ・ミュンヘン)

エスペック信頼性セミナー2017の開催

お客さまへの信頼性試験における有益な情報を提供する活動として、信頼性セミナーを東京と大阪で開催し、計248名のお客さまに参加いただきました。製品の開発サイクルの短縮化に伴って注目が高まる加速試験「HALT (Highly Accelerated Limit Test)」をテーマに講演を行いました。電動車両機器向け環境試験規格の国際標準化動向についても最新情報をご紹介します。ご来場のみなさまからご好評をいただきました。



エスペック信頼性セミナー2017

技術者向け情報サイト「Test Navi」

技術者のための信頼性技術の専門情報サイト「Test Navi」を開設しています。環境試験のノウハウや信頼性試験の基礎から最新の試験動向まで、お客さまに役立つ情報をタイムリーにお届けしています。2018年4月末現在における会員登録者数は16,429名となりました。

ネットワークを利用した商品・サービスの提供

ネットワークを利用して複数の装置の稼働状況をモニターできる集中管理システムを提供しています。試験装置の運転状況や結果確認のための見回りが不要となるなど、より効率的な試験を行うことができます。

業界初 製品の「5年保証」の実施

2015年より、主要3製品を対象に業界初となる「5年保証」を実施しています。製品を設置してから5年間、無償で修理対応を行います。高品質な製品と万全のサービス網を持つエスペックならではのサービスです。

海外代理店サービストレーニングの実施(フランス・ビュク)

海外のお客さまに安心して製品をご使用いただけるよう、海外代理店フィールドエンジニア向けのトレーニングを実施しています。2017年度はドイツ、フランス、トルコ、ロシア、台湾など計8カ国、27名のフィールドエンジニアが参加しました。装置不具合時における原因解析力の向上に向けた活動を行いました。



海外代理店サービストレーニング(フランス・ビュク)

カスタマーサポートデスク

2003年、業界に先駆けてお客さまのお問い合わせにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置しました。2016年度には「カスタマーサポートデスク」と組織名称を変更し、装置トラブルへの対応も開始するなどサポート体制の強化を図りました。これにより製品の購入前から製品廃棄に至るさまざまなシーンにワンストップで問題解決できる体制となりました。2017年度は約12,000件のお問い合わせに対応しました。また、お客さまへの対応品質の向上を図るため、全オペレーターが電話対応技能検定資格を取得したほか、お客さまへの適切な回答方法を学ぶ社内教育を定期的に行っています。

予防保全とメンテナンス

お客さまに安心して製品をご使用いただくため、全国15のサービス拠点で最適な予防保全と24時間受付サービスなどによるオンコールサービスを行っています。さらに、エスペックがネットワークを介して装置の異常を検知し、早期にお客さまにご連絡して復旧をサポートする「エスペックオンラインサポート」も実施しています。

従業員とのかかわり

人事制度・教育

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。「社員が主役の会社でありたい」というのが基本的な考え方です。

また、高いモチベーションと品格を兼ね備え、チャレンジ精神に富む良質な人材の開発・育成に取り組むことで、「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

コミットメントセッション(目標管理面談)の実施

全社員を対象とした目標管理面談「コミットメントセッション」を定期的の実施しています。社員一人ひとりの目標設定や業務上の課題、今後のキャリアビジョンなどについて、本人と上司が話し合うことで、部門におけるベクトル合わせとコミュニケーションの円滑化を目指しています。

コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2018年3月末現在におけるコース選択状況は「転勤あり(海外含む)」が81%、「勤務地域限定」が19%となりました。

社内公募制度

特定の事業やプロジェクトなどの要員を社内で募り、社員が自由に応募できる制度です。社員のチャレンジ精神を育成・尊重するとともに、人材の発掘・流動化による組織全体の活性化を目的としています。社員は事務局である人事部門に直接応募し、応募情報は秘匿されます。2017年度は、1件の公募が実施されました。

社員表彰の実施

1991年より毎年、特許・実用新案の取得や行政・加入団体からの表彰など、精励・功勞の著しい社員を他の模範としてたたえる社員表彰を行っています。

自己啓発教育支援

自己啓発教育講座、援助金支給制度(外国語学習支援、通信教育、推奨資格)など、社員が「伸ばしたい能力」に合わせた教育支援を行っています。

2017年度は、昇格審査において、社員の自己啓発がより評価につながる仕組みに一部改定を行いました。また、自己啓発教育講座を新たに4講座開講するなどさらなる充実を図り、415名が受講しました。通信教育133名・推奨資格77名・外国語学習29名が援助金支給制度を利用しました。2018年5月には、グローバルに活躍する経営幹部の育成を目的とした「エグゼクティブ育成制度」を新設しました。MBA(経営学修士)や大学卒業資格の取得、語学力など、経営幹部として求められる能力や見識を備えるための支援を行います。

グローバル・トレーニー・プログラム(海外研修制度)

国際的に活躍できる中核的人材を育成するため、グローバル・トレーニー・プログラムを設けています。この制度は、社員を海外グループ会社に一定期間派遣し、現地での実務体験を通してグローバルな考え方や幅広い見識を身に付けるものです。2017年度はタイ2名、アメリカ1名、ドイツ1名を派遣しました。



現地研修(タイ)

ダイバーシティの推進

女性の活躍推進

● 女性社員の育成

意欲や能力のある女性が働きやすく活躍できる組織づくりに力を入れています。2013年度より女性リーダー育成研修を実施し、これまでに23名が受講しています。2017年10月には、若手女性社員を対象にキャリア形成支援を目的としたキャリアデザイン研修を行いました。2018年4月1日現在の管理職は86名のうち女性4名で、女性管理職比率は4.7%です。また、役員(執行役員含む)は17名のうち女性1名で、女性役員比率は5.9%です。女性活躍推進に関する行動計画は、エスペックのホームページに掲載しています。



女性社員向けキャリアデザイン研修

● 出産後も働きやすい職場環境づくり

正社員だけでなく契約社員やパートタイマーにも育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しており、短時間勤務は子供が小学3年生を修了するまで利用が可能です。2017年度は6名が育児休業を取得し、6名が短時間勤務を利用開始しました。育児休業取得率は女性100%、男性3%でした。また、産休・育児休業中に会社との情報交換を円滑に行えるようSNSサイトの運営を行うほか、在宅勤務の試験導入を行うなど、出産後も働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

● 社外からの評価



子育てサポート企業
「くるみん」



女性活躍推進企業
「えるぼし」(3段階目)



大阪市女性活躍
リーディングカンパニー認証

定年退職者の再雇用

定年退職者の再雇用制度を導入しています。希望者全員を65歳まで雇用するようしており、2017年度は定年退職者14名のうち、再雇用者13名となりました。また、55歳を迎える社員を対象に再雇用を見据えた今後のキャリアについて考える機会として、キャリアプラン研修を実施しています。

障がい者の雇用

障がいのある方が13名勤務しています(2018年3月末現在)。障がい者を、その能力や適性に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組みます。

快適な職場環境づくり

柔軟な働き方に向けて

単月の時間外労働時間が80時間を超える社員に対して医師による面接指導を義務付けています。また、家庭と仕事のバランスを考慮し、有給休暇計画取得制度やフレックスタイム制度を導入しているほか、週1回の一斉退社日(ノー残業デー)を設定しています。2017年度は、コアタイムのないスーパーフレックスタイム制度の試験導入や事業所における一斉消灯を実施するなど時間外労働削減に向けた取り組みを強化しました。

メンタルヘルスケアの推進

心の健康問題への対策として、社員とそのご家族を対象としたメンタルヘルスケア制度を導入しています。毎月自己の状況を確認できるストレス診断の実施のほか、電話やWEB、面接による相談窓口の設置、メンタルヘルスマネジメント研修などを行っています。2017年度は、全社員で一斉にストレスチェックを実施しました。

セクハラ・差別行為に関する連絡・相談窓口

セクハラやその他の差別待遇、いやがらせ行為などについて、社員からの連絡・相談を受け付ける窓口を設置しています。

従業員とのかかわり

労使関係

労働組合はユニオンショップ制をとっており、組合員は642名、組合員比率は77.3%です(2018年3月末現在)。労働組合とは労働協約のもと相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでおり、毎月「労使協議会」を開催し、情報・意見交換を行っています。

安全衛生活動

安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動に取り組んでいます。2017年度の休業労働災害発生件数は2件で、連続無災害日数(不休災害を除く)は289日となりました。(2018年3月末現在)

■安全衛生活動の実績

	2015年度	2016年度	2017年度
労働災害(不休災害を除く)	1件	0件	2件
健康診断受診率	100%	100%	100%
車、バイク、自転車による人身事故	4件	5件	3件
車、バイクによる自責事故	30件	19件	21件

福利厚生充実

社員の多様なニーズへの対応や、より公平な福利厚生サービスの提供を目的として、自身で必要なサービスを選択する選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」を導入しています。育児や介護、旅行など多様なメニューから割引サービスなどを受けることができます。

また、社員の資産形成を支援するため、財産形成貯蓄制度では社員の積立額に対して、従業員持株会では会員の拠出金に対して、定率の奨励金を会社より支給しています。2017年9月には、2014年より導入していた「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)」が終了し、対象者に分配金が支払われました。

2017年より社員が病気やケガで長期間働くことができなくなった場合に一定の収入を補償するGLTD(団体長期障害所得補償保険)制度を導入しています。

従業員とのコミュニケーション

ラウンドアップ研修会の実施

全社員を対象にラウンドアップ研修会を実施しています。ラウンドアップ研修会は、社員一人ひとりが企業理念の理解を深め、より良い企業文化を形成するために毎年実施しています。2017年度は、管理職や一般社員、新入社員といった各層のプログラムに、世代を超えた中核的人材を集めたプログラムなど計16回開催し、386名が参加しました。



研修風景

社長メッセージ

社内ホームページに、社長メッセージを定期掲載しています。社長の考えや戦略の進捗などを全社員にタイムリーかつダイレクトに伝えています。また、2018年度より、社員が仕事上の悩みや課題を投稿することで直接社長に相談できる「明るい仕事相談室」を新設しました。経営層と社員の双方向のコミュニケーションを推進するとともに、価値観の共有を図っています。

社内報「プログレッシブ」の発行

全社員への企業理念THE ESPEC MINDの理解や浸透、情報の共有を目的とした社内報「プログレッシブ」を定期的に発行しています。



取引先さまとのかかわり

取引先さまとの より良い関係を目指して

基本方針

私たちは取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を遵守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスなどを適切な品質・価格・納期・環境への配慮などを総合的に判断し調達していきます。

法令の理解・遵守のために

資材調達においては「下請代金支払遅延等防止法（下請代金法）」遵守の徹底を目的として、社内教育をはじめ、さまざまな取り組みを行っています。

2017年度は、監査対象部門への定期的な自主監査を継続して実施し、懸案事項への必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動に取り組みました。また、下請代金法の研修会を購買担当者や取引先さまと関係のある部門責任者だけでなく、営業責任者も対象として開催しました。関係部門の新任管理者に対しては、外部講習会の受講を促進することで、全社一丸となって下請法遵守体制の強化に取り組みました。

事業継続マネジメントの取り組み

自然災害や取引先さまの倒産など不測の事態が生じた場合、お客さまへの影響を最小限に抑えるため、資産である金型の現物確認や、取引先さまの経営状況等の確認を定期的実施しています。

2017年度は、IoTを活用して金型の現状を迅速に把握できる仕組みを新たに構築しました。また、エスペックが策定した「災害確認基準」と「初期対応方法」に基づく実践活動を継続して行いました。取引先さまの被災状況や重要部品の状況確認を迅速に実施することで生産現場への影響を最小限に抑えることができました。

「エスペック共栄会」の運営

1981年より取引先さまとの相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を組織しており、35社の取引先さまに参画いただいています。（2018年3月末現在）

2017年度は、現場力の強化を目的として実務担当者の方を対象としたスキルアップ研修やQCサークル活動の活性化に取り組み、大きな成果を得ることができました。また、多大なご協力をいただいた取引先さまに対して、感謝の意を表する「エスペック優秀取引先表彰制度」を導入しています。2017年度は、社長賞1社・優秀賞1社・特別賞1社の取引先さまを表彰させていただきました。

グリーン調達の実施

資材調達先に対するグリーン調達においては、ISO14001認証取得をはじめとした環境マネジメントシステムの構築を条件に、環境負荷低減や環境関連法の遵守など環境管理活動への取り組みを評価する指針として「エスペックグリーン調達基準書」を制定しています。2017年度は、グリーン調達認定取引先の拡大を目的として、取引先さまへの現場指導に継続して取り組みました。その結果、登録部品点数の96%を占める計124社の取引先さまが認定基準を満たすことができました。

「市況説明会」の開催

2017年5月と11月に主要取引先さま計72社をお招きし、「市況説明会」を開催しました。経済動向や受注状況など、取引先さまが生産活動を行うにあたって必要な情報を事前に提供して共有することで、安定調達の実施に取り組みました。



市況説明会

株主・投資家さまとの かかわり

株主・投資家さまとの コミュニケーション

情報開示の方針・体制

会社法、金融商品取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則などに従い、情報開示を行っています。また、同規則に該当しない情報についても、私たちが理解していただくうえで役立つ情報は、積極的かつ公平に開示していきます。

社内体制としては、開示情報を審議する機関として、情報開示委員会を設置しています。

開かれた株主総会に向けて

株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。

第65回定時株主総会では、110名の株主さまにご出席いただき、総会終了後には株主懇談会を開催しました。社長より中期経営計画「プログレッシブプラン2021」について説明し、株主さまからご質問・ご意見をいただきました。

2018年度は招集ご通知を法定期日より1週間前に発送しました。さらに、東京証券取引所およびエスペックのホームページにおいて、法定期日の2週間前に早期開示を実施しました。また、議決権行使の利便性向上のため、郵送に加え、インターネット経由での行使も可能にしています。



第65回定時株主総会

機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と役員が出席し、業績や戦略などについて説明しています。

また、個別ミーティングについても東京・大阪を中心に随時行っており、2017年度は約100回実施しました。

東証IRフェスタへの出展

2018年3月にパシフィコ横浜で開催された東京証券取引所主催の個人投資家向けIRイベント「東証IRフェスタ2018」に出展しました。4回目の出展となる今回は「エスペックがさらに成長する理由」と題して、世界の技術革新に不可欠なエスペックの事業内容やブランド力などについてご紹介しました。社長による会社説明会のほかブース内説明会を繰り返し行い、2日間で1,400名以上の方々にお越しいただきました。

今後も個人投資家のみなさまと情報交換をさせていただく機会を積極的に設けてまいります。



ブース内説明会

ラジオNIKKEI「アサザイ」に出演

2018年2月、ラジオNIKKEIの投資家向け番組「朝イチマーケットスクエア「アサザイ今日の1社」」に出演し、社長より私たちの事業や強みを紹介しました。

環境省「環境情報開示基盤整備事業」へ参加

企業と投資家等が環境情報を中心とした実質的な対話を行う環境省の「平成29年度 環境情報開示基盤整備事業～ESG対話プラットフォーム～」に参加しました。ESG情報の開示や投資家さまとの双方向のコミュニケーションを実施しました。

IRツールの充実

●株主通信

年2回発行している株主通信では、株主さまにエスペックについてよりご理解を深めていただくため、私たちのさまざまな取り組みを紹介しています。2017年度は、特集記事として主力製品である環境試験器の紹介や、経営体制および新任取締役の紹介などについて掲載しました。



第65期 中間株主通信

●ホームページ(IRサイト)

IRサイトでは、2018年度よりスタートした中期経営計画「プログレッシブ プラン2021」や財務・業績データ、決算説明会などの各種IRイベント資料を掲載するなど投資家のみならず有用な情報の発信に努めています。



IRサイト

IRサイトに対する社外評価

エスペックのIRサイトは、日興アイ・アール社主催の「2017年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」において、優秀サイト(総合ランキング)に認定されるなど、社外より高い評価をいただいています。



経営へのフィードバック

株主・投資家さまアンケート

私たちは、会社説明会などにおいて投資家さまからご意見をいただくほか、株主通信の送付時にアンケートを実施し、株主さまからいただいたご意見などを中間株主通信で報告しています。2017年度は、1,874名の株主さまからご回答をいただきました。

市場評価のフィードバック

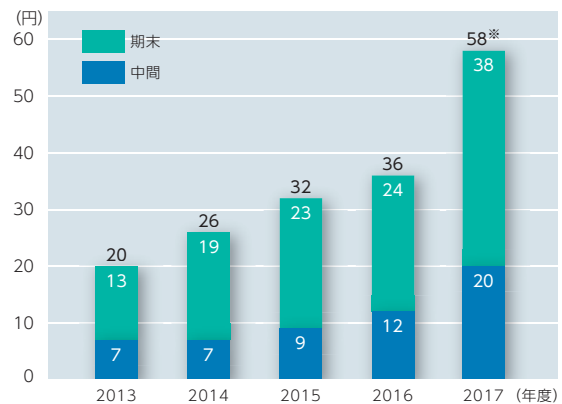
会社説明会やIRイベント、株主通信読者アンケートの分析結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などをレポートにまとめ、取締役会で随時報告を行っています。市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

株主さまへの還元

利益配分に関する基本方針

私たちは、株主のみならずみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、継続性と配当性向を勘案して配当を決定することを基本方針としています。2017年度の年間配当金は1株当たり58円とさせていただきます。

■1株当たり配当金



*記念配当 中間1円、期末1円含む

社会貢献

社会とのコミュニケーション

公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」

創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置し、2017年度で20周年を迎えました。地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対し資金援助を実施しており、これまでに221団体に対し、総額11,427万円の助成を行いました。

2017年度は、応募数127件の中から、19件のテーマについて助成しました。



第20回公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」授与式

■ 審査委員 (敬称略)

今中 忠行

京都大学 名誉教授
立命館大学 総合科学技術研究機構 上席研究員

大政 謙次

東京大学 名誉教授

佐山 浩

関西学院大学 総合政策学部 教授

鈴木 胖

大阪大学 名誉教授
公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)
関西研究センター所長

松下 和夫

京都大学 名誉教授
公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)
シニアフェロー

吉村 元男

株式会社環境事業計画研究所 会長
鳥取環境大学 元教授

■ 第20回研究テーマ

- 1 地域環境評価の基礎となるCO₂濃度空間分布の検証
- 2 グラフェンナノシートによる二酸化炭素高選択的分離システムの構築
- 3 里山での竹林拡大がもたらす多量・微量元素の分布・存在量・循環量の変化と環境への影響
- 4 地球温暖化適応策としての都市における木造住宅(町家)とライフスタイルに関する研究
- 5 アマモ場再生に向けた、バイオセメンテーション技術の新規利用
- 6 沖縄サンゴの白化現象における拮抗細菌の役割
- 7 自然と関わる「経験の絶滅スパイラル」: そのメカニズムと適応策の解明
- 8 獣害とジビエ振興をめぐる公共政策の比較分析: 日本のシカとオーストラリアのカンガルー対策
- 9 オゾン層破壊に関わる氷表面での塩化水素ガス取り込み機構のその場観察
- 10 ミャンマー農山村地域における環境教育の実施と水質モニタリングネットワークの構築
- 11 次世代の無人プラットフォームを利用したPM2.5エアロゾル粒子の計測手法に関する研究
- 12 浮葉植物ヒシを利用したアオコ防除および水質改善の研究
- 13 外国企業による水源地域森林買収に関する目的不明状況の探索的解明
- 14 衛星データを用いた北方林における林床植生バイオマスの長期変動解析
- 15 安全・安心な飲用井戸・貯水槽の実現に向けた自立型プラズマガス・バブリング装置の開発
- 16 楮栽培による耕作放棄地の再生利用および楮栽培に新たな価値を付与する試み
- 17 気候変動が島嶼部の観光に与える影響評価手法の開発
- 18 地方自治体における地球温暖化防止普及啓発の実行性向上にむけて
-地域センター・推進員活動と実行計画の比較及び予算の連携性分析を通じて-
- 19 数十年~数百年規模スケールの陸域環境変動と気候との関連性の解明

公益信託の応募受付は、毎年4月より行っています。応募要項などの詳細については、エスペックのホームページの「エスペック地球環境研究・技術基金」に掲載しています。

エスベックみどりの学校

私たちはエスベックみどりの学校を開校し、全国各地でセミナーやイベントなどを開催しています。この学校は、環境教育等促進法に基づく人材認定等事業で、累計受講者数は10,920名(2018年3月31日現在)となりました。

●「みどりのカーテン」出前授業を実施

福知山市のみどりのカーテン実施率向上に貢献

みどりの学校では、窓際にゴーヤを植え育てることによって温暖化防止に取り組む「みどりのカーテン」の出前授業を全国の小学校などで行っています。2017年度は25校、1,497名の子どもたちが参加しました。私たちの主力工場がある京都府福知山市では、「みどりのカーテン日本一のまち福知山」を目標に掲げています。この目標の達成に向け、市民のみなさまを対象とした苗の無料配布や、みどりのカーテンの効果と育て方を学ぶセミナーを開催するなど、みどりのカーテンの普及活動を行いました。その結果、2017年度の福知山市のみどりのカーテン実施率は11.7%(3,625世帯)となり、福知山市が掲げる目標の達成に大きく貢献することができました。



みどりのカーテンセミナー(福知山市立成仁幼稚園)

宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹活動に参加

2017年5月、宮城県岩沼市で「千年希望のお花のこみち植樹会」が開催され、社員ボランティア30名が参加しました。「千年希望の丘」は、岩沼市の沿岸部10kmに渡って植樹してつくる森の防潮堤です。後世に被災の教訓をつなぐためのメモリアルパークとして、「千年希望の丘」を含むエリア一帯の整備が進められています。エスベックからは、低木「ハマナス」140

本を寄贈するとともに、植樹して約1kmの遊歩道を整備しました。「千年希望の丘」はエスベックミックが植樹支援を行い、2013年より毎年大規模な植樹祭が開催されてきました。2013年から2017年までの5年間を通して植えられた苗木は約27万本、植樹ボランティアは約3万人、エスベックの社員ボランティアは121名が参加しました。「千年希望の丘」の造成が終盤を迎えたことから、2017年で大規模な植樹祭は最後となりましたが、2018年においても、低木「ハマナス」の苗木の寄贈を行うなど、継続した支援を行っています。



社員ボランティア

環境フェスティバルの開催

栃木県の清原工業団地にある宇都宮テクノコンプレックスでは、環境啓発を目的に毎年環境フェスティバルを開催しています。2017年度は8月に開催し、小学生をはじめとする地域のみなさま約70名が来場されました。環境フェスティバルでは、紙すきでのはぎ作り体験や太陽熱調理器「ソーラークッカー」で調理した料理の試食会などを行いました。宇都宮市のキャラクター「ミヤリー」、エコキャラクターの「ぶんべつくん」と「アースくん」も参加し、地域のみなさまに楽しみながら環境について学んでいただきました。



太陽熱調理器「ソーラークッカー」を用いた調理